

化学療法センター

乳腺外科部長（化学療法委員会委員長） 杉本 健樹

概略

化学療法センターは主に外来患者の化学療法を実施する現場であり、各診療科の担当医が指示した化学療法を施行すると同時に、多職種で多忙な担当医が気付かなかった患者の問題(依存症や有害事象等)を発見して担当医と連携して治療中の患者のQOLを改善するように努めている。

総合内科の浅羽医師の協力による漢方薬による支持療法、管理栄養士による栄養指導、歯科医師・歯科衛生士による口腔ケア等も施行して、治療の継続性の維持に効果を上げている。

2025 年 1 月～12 月の活動報告

2025 年の化学療法センター利用患者は、抗がん剤治療や生物学的製剤による治療の他、患者相談やセルフケア・アピアランスケア指導、抜針指導、地域連携等、多岐にわたっており、3580 件の利用があった。

化学療法センターへのホットライン件数は 78 件となっており、内訳として発熱や下痢など副作用による相談が主な内容である。ホットラインには、症状マネジメントのみならず、不安、意思決定、受診行動に関わる重要な情報を含んでおり、外来化学療法における治療継続支援、有害事象の重症化の予防、不安に対する心理支援など患者支援に寄与しているものと考えられる。

2025 年の過敏症、インフュージョンリアクション発生件数は 5 件の発生があり、使用薬剤はカルボプラチン、オキサリプラチン、パクリタキセル、ゾルベツキシマブであった。全て化学療法センター内での初期対応により重篤化に至らず経過できている。

2020 年より開始している、がん薬物療法看護（化学療法）院内認定看護師養成研修は、2025 年で第 5 期生を育成し 5 名が修了・認定した。これにより当院の院内認定看護師は 21 名（内 1 名退職）となった。2026 年度からは院内認定看護師によるがん薬物療法看護師ワーキンググループが発足されることとなり、より質の高いがん薬物治療を提供できる体制が整ってきた。

患者背景が多様化している現在、個別性に応じた医療・看護の展開に向け、今後も主治医及びがんサポートチームで患者を支援していく体制作りの構築を目指す。

2025 年 1 月～12 月の施行件数

2025 年 1 年間の外来がん化学療法実施件数は 2884 件で、昨年より 701 件増加した(図 1)。化学療法の新規導入患者数は右肩上がりです。2025 年は 224 人に達し、昨年より 32 人多く、10 年前（2016 年は 61 人）に比べ約 4 倍に増加している(図 2)。入院患者も含んだ月平均がん化学療法施行患者数は 362.5 人と比べ著明に増加し、当院における癌患者数の増加と同時にがん診療における化学療法の重要性が示唆される。

外来化学療法室での施行が推奨されている分子標的薬(抗リウマチ薬、クローン病等治療薬である)レミケード、アクテムラ、オレンシアの合計件数は 580 件で、昨年(523 件)より 57 件増加

した(図 3)。これに外来がん化学療法件数を合算した外来化学療法の合計件数は 3464 件(2024 年 2706 件)で、化学療法センターで利用した総件数は 3580 件であった。

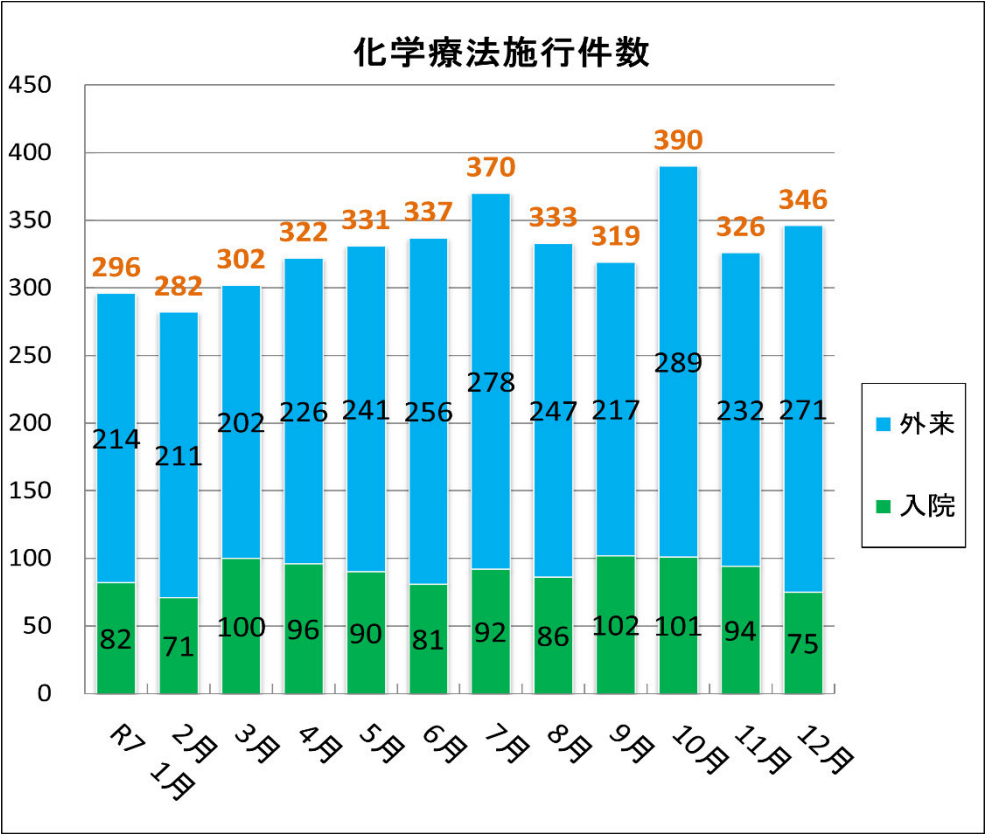


図 1) 2025 年 化学療法施行件数

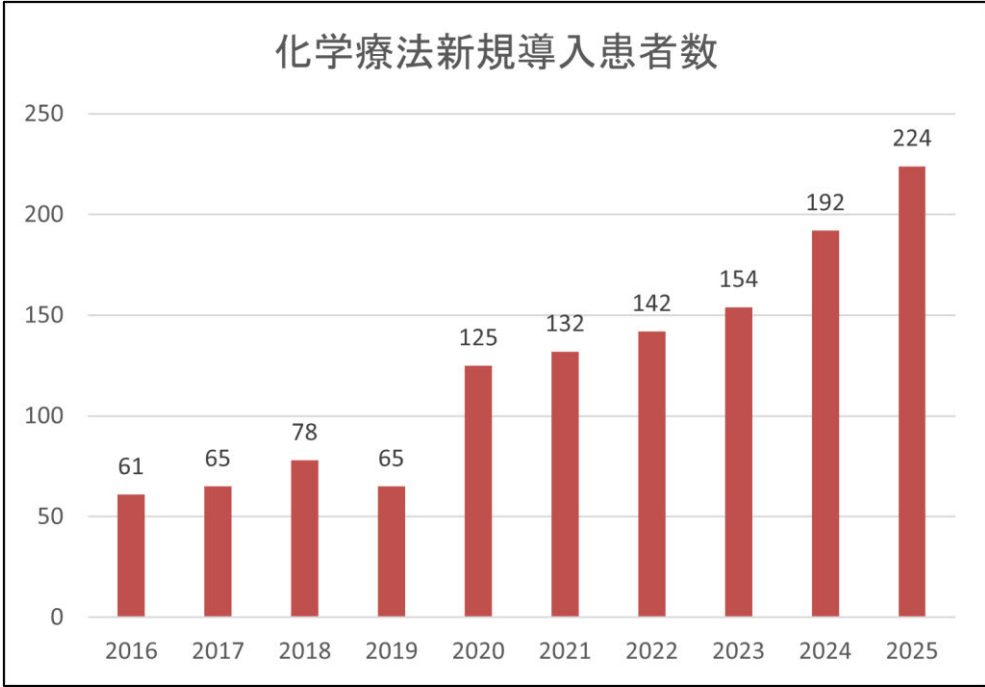


図 2) 2016 年～2025 年 化学療法新規導入患者数

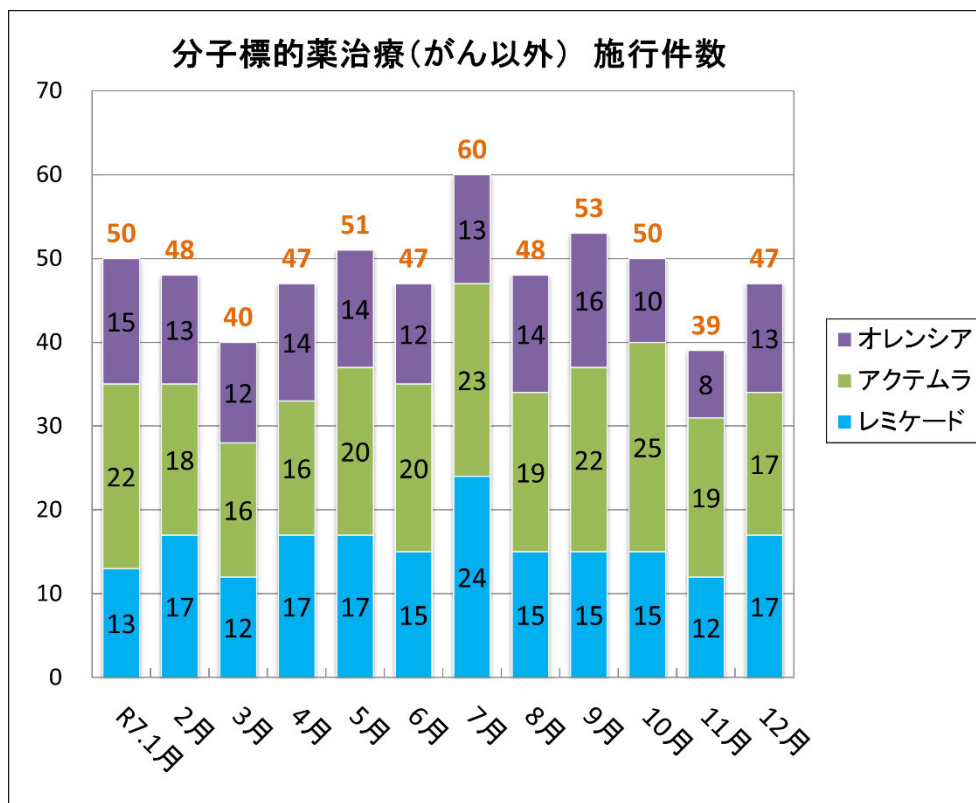


図 3) 2025 年分子標的薬治療(がん以外) 施行件数

統計まとめ

2025 年の外来化学療法新規導入患者数は 224 人で科学療法実施件数は 2884 件で 10 年間で約 4 倍に達している。

また、外来化学療法センターで実施した入院患者の化学療法およびがん以外の分子標的薬の投与件数は 3580 件に達していて、昨年の 3297 件より増加していた。